

# これが国が進める河川改修工事の全容だ！

完成イメージ図

名張かわまちづくり 一体型浸水対策事業 (I期) <令和7年度(2025年度)完成予定>

## ■川の氾濫や洪水を防ぐ工事

- ▼洪水時に水位を低下させるため、川底を掘るなど、水が流れる面積を広くします。
- ▼黒田地区付近の名張川左岸約1キロにわたり堤防の位置を最大70m後退させ、川幅を約2倍に広げます。

## ■橋の架け替え工事

- ▼堤防を作りかえる工事に伴い、黒田橋の架け替えや、名張大橋を長くする工事を行います。



本年3月、「階段護岸」の整備が完了

## ■水辺空間を生かす整備

市地域づくり代表者会議、市観光協会や市教育委員会など、関係団体で構成する「名張かわまちづくり協議会」により、河川敷に親水広場や桜並木の植樹など水辺空間を生かした整備を進めていきます。



新緑の山並みと桜並木



水辺で遊べる親水エリア

# 災害に強く、

# 心惹かれる名張川に

木津川上流河川事務所長に、名張川の河川改修にかける思いを聞きました

名張川納涼花火大会の会場付近を歩いていると、いくつもの重機が河川の改修工事をしている光景を目にします。今号では、木津川上流河川事務所長に事業の内容や目的などをお聞きしました。

木津川上流河川事務所 ☎63・1611

## 台風やゲリラ豪雨などに強い川づくりを目指して

全国各地で、豪雨などによる洪水や土砂崩れなどの被害が多発しています。かつて、名張川も伊勢湾台風などで氾濫し、大きな被害を受けたことから、新町地区での河川整備をはじめ、青蓮寺ダム・室生ダム・比奈知ダムが建設され、台風などの豪雨で河川の氾濫などが想定される場合、これら3つのダムが連携して名張川、宇陀川の洪水調節を行うなど、地域住民の命と暮らしを守ってきました。

しかし、近年はゲリラ豪雨など、想定外の豪雨災害が増え、3つのダムによる調節だけでは対応が困難になっています。5年前には、名張川と宇陀川の合流付近は川幅が狭く、名張川が増水、宇陀川の水が名張川に流れ込むことができず逆流するなど、大雨などにより、浸水被害が発生したこともありました。そこで、大規模出水時の流域の安全度をさらに向上させるとともに、水辺空間を生かした整備を行うことを目指しています。

空間として「階段護岸」が完成しました。

## まちなかに川辺の景観があるまちは見たことがない

令和2年6月まで、「災害査定官」として全国を飛び回り、台風など自然災害で損傷した河川設備の復旧や整備が適正に行われているかどうかを確認する仕事をしていました。

災害で損傷した護岸や堤防などをコンクリートで補強して復旧を目指しますが、川の流れや地形に同じものはありませんので、同じ工法や部材ばかりを用いるのではなく、その土地や川の特徴に合った整備を行うことで、災害に強く長持ちする「護岸」や「堤防」になると思います。

時々、名張川沿いを散歩しますが、市街地を取り囲むように川が流れ、その近くに家が建ち並んでいるのが珍しいなと感じます。これまで、いろいろ



木津川上流河川事務所  
事務所長 小寺 秀治さん

ろな地方へ赴任しましたが、名張のように、川とまちが一体となった地域は見たことがなく、すごく心が惹かれます。だからこそ、名張川の改修は、手つかずに近い川原や古くから残された街並みなどの景観を生かしたものにしたいと考えています。

令和2年12月に、地域づくり代表者会議など、関係団体の皆さんで構成される「名張かわまちづくり協議会」で、水辺空間の整備に向けた意見交換会が行われました。「川沿いに桜並木や散策できる道を設けてはどうか」「雨の日でも遊べるような場所を」「など、工事区間に留まらず、上流から下流まで巡って楽しめる場となるような、地域活性化の取組を計画していただいています。こうした計画を取り入れながら、皆さんに親しまれる名張川を一緒に創っていききたいと考えています。